

# 4年：地図で教える 「健康で安全なくらし」の学習

愛知教育大学教授 寺本 潔

## ① 地図帳ってそうなんだ！

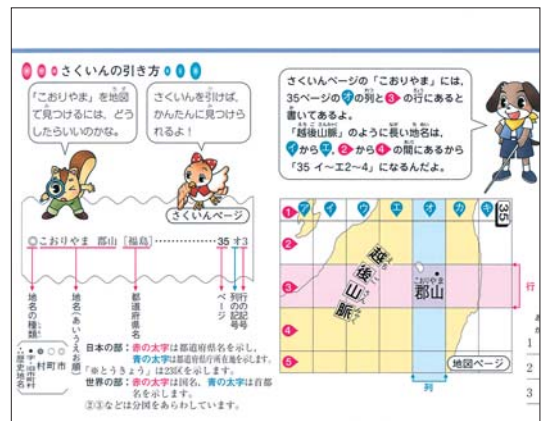
4年生になり『楽しく学ぶ小学生の地図帳』を配布されて、本格的な地図学習がスタートします。社会科の第一時間目にこう言いましょう。「地図帳はみんなの頭脳に賢くなる印（しるし）をつけてくれます。」「頭のよい人は地図が思い浮かぶ人です。」「地図帳は（絵を）見るのではなく（図を）読む教科書です。」この3つを児童に必ず伝えてください。そうすれば社会科大好き子になってくれます。

配布した瞬間、目を輝かせて地図帳を開き自分の住んでいる県や市町村を探したり、キャラクターの吹出しを読んで楽しんだり、外国の地図の描かれたイラストに興味を持ったりとさまざまでしょう。先生方も楽しそうに開いてください。「あっ、この間先生が出張で行った東京都の中心部の地図が39頁に載っているよ！外国の国旗がたくさん貼り付けてあるな？なんだろう？」とか「先生は春休みに九州にある指宿市<sup>いぶすき</sup>を旅してきました



『小学生の地図帳』（初訂版） P.39

た。指宿って湯の宿（ゆのしゆく）が語源で温泉天国の市なんだよ。さて何ページに載っているでしょうか？ 66頁に探し出す方法が書いてあるよ。」などと早速クイズを出してみましょう。



帝国書院『小学生の地図帳』（初訂版） P.66


未知の世界の扉を開ける鍵を手にするように地図帳の魅力を楽しげに話すのがコツです。「地図帳ってそういう風に使うんだ！」と教えてください。最初が肝心です。「これから毎時間社会科では地図帳を必ず机の上に置くこと。」「ニュースや新聞、家族との会話で知らない地名が出てきたら、辞書と同じように調べる癖をつけること。」この二点も忘れずに指導して下さい。

## ② ゴミ処理の学習は地図帳から

4年最初の単元の多くは「ごみのしよりと活用」でしょう。この中で地図帳が活躍できる場面は「ごみのゆくえ」を地図上で調べるシーンです。ごみステーションで集められたごみが地域のクリーンセンターに運ばれるようすを学習します。こ



帝国書院『小学生の地図帳』（初訂版） P.30

の学習を地域副読本や市の地図だけで教えるのは不十分です。なぜなら、ごみ処理は市域を越えて広域にわたる協力体制が敷かれているからです。地図帳では東京都、名古屋市、大阪市、福岡市・北九州市の4都市の「くわしい地図—都市のくらし—」（拡大図）に「おまごみ処理場」を示す赤い地図記号（）があります。これを使うのです。

たとえば東京都の頁（p.37～38）には合計64もの処理場が発見できるから驚きです。この地図帳では、1日の処理能力約250トン以上を有する処理場が示されており、大都市部からいかに大量のごみが排出されているかを知る窓口になります。

「くわしい地図」で記号の分布を確認すれば、東京23区の内外に多くの処理場が集まっている事実がわかります。つまり人が出すごみをパッカー車が集めてクリーンセンターに運ぶ距離が遠い

と運送にエネルギーがかかってしまい不都合である事実気づかせることができます。とくに東京湾の都心よりや23区を取り囲む地域（埼玉県や千葉県、神奈川県、東京に近い場所）に比較的多く分布していることが発見できます。このことは、大都市ではごみ処理は周辺自治体との協力関係なくしては成り立たないことを学ばせることができ、社会科のねらいに到達させる切り口になります。こうした傾向は名古屋や大阪でも同様に見つけられ、都市のくらしの一端がわかってきます。「くわしい地図」に掲載されていない地域では、県の環境保全課にたずねて、おまごみ処理場の位置を県の地図の中に書いてみてください。

教材としてのごみを地図上で理解させるもう一つの手立ては、海辺に着目させることです。燃えないごみや、ごみを燃やした後の灰が運ばれる埋め立て処分場を地図上で調べさせるのです。多く

くらしと環境					おもな伝統工芸品と生産都市	都道府県	
1人あたり電力 使用量 (kWh) 2001年	100世帯あたり 乗用車台数(台) 2002年	1日1人あたり ごみ排出量 (g) 2001年	下水道の 普及率(%) 2003年	総面積に占め る自然林(%) 1998年			1人あたり 公園面積 2001年(m <sup>2</sup> )
5,080	106.5	1,389	85	46.5	19.65	アツシ織(平取町) 木彫くま(白老町、平取町)	北海道
5,382	121.0	1,270	44	17.0	10.59	津軽めり(弘前)	青森
5,541	134.4	998	41	10.4	8.62	南部鉄器(盛岡、水沢) 岩谷堂たんす(盛岡、立刺)	岩手
5,817	130.4	1,119	69	9.9	11.02	こけし(崎子町) 雄勝すずり(雄勝町)	秋田
5,805	135.7	1,148	43	16.3	11.32	川通しっ鼓(福川町) かば組立(角館町) 曲がわっぱ(大館)	宮城
5,664	161.7	1,020	56	21.6	11.67	籠崎つむぎ(米沢) 山形餅物(山形) 将棋駒(天童)	山形
6,295	149.5	1,116	37	12.2	8.56	会津ぬり(会津若松) 大地相馬やき(湯江町)	福島

帝国書院『小学生の地図帳』  
(初訂版) P.64

は、直線で区切られた「埋立地」の記号(  )  
で示されています。つまり、埋立地が多ければ多い都市ほどごみをたくさん出していることに気づかせる必要があるのです。社会科では大都市では今ある埋め立て処分場がいっぱいになるときにそなえて新しく埋め立て処分場をつくっていること、埋め立て処分場は川のそばや海にあるため、そこにすむ魚や貝、海草などの生き物や川・海の水に影響が出ないように気をつけていることなど環境に関する内容も扱えます。たとえば、大阪府の場合では、大阪府を含む2府4県の各市町村が共同で処分場を利用しており、ここでも社会事象は相互に協力している事実を理解させることができます。地図帳ではさらに巻末にある都道府県の統計(p.63~64)にも「1日1人あたりのごみ排出量(g)」の統計数値が掲載されており、自県は全国でどれくらいごみを出す県であるかを知ることができます。ワースト何位かなど興味深い学習ができます。

### ③ くらしを支える水の学習も地図帳から

ごみの学習の後に水の学習に移る場合にも地図帳が大活躍します。「水の旅」を地図帳で確認する作業を指示するのです。自分の飲んでいる水がどの河川の水であるかを指で確認します。「〇〇川の水源地を探そう!」と言って川筋を上流にたどらせてみます。

いくつかの都市では県境を越えて隣の県に降っ



『小学生の地図帳』(初訂版) P.35~36

た雨が水道水の源になっている事実に気づかせることができます。上流がつかみにくい場合には、ダム記号に着目させて探させます。たとえば、関東の水がめである八木沢ダムは群馬県の最奥の山にあることを発見させるのです。「こんなに遠くの県から水が運ばれているんだ！」と感動を持って扱ってください。このときには「〇〇地方の地

図」（基本図）が活躍します。児童は、水の旅を確認しながら、同時に隣接県の名称や形、山地や地名に関心を持つようになる（→「わたしたちの県」の学習の布石）のです。

実際の指導では水滴を擬人化して「〇〇川で生まれた水滴君の旅」と題する紙芝居を作成させたり、「市の水道水はなぜうまいか？」（ミネラルが豊富な森林地が水源である事実）を考えさせたりする学習が効果的でしょう。こうした地図の指導法は、小学校社会科の学習指導要領の目標（3）に記してある「地図や各種の具体的資料を効果的に活用し（中略）地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育てるようにする」を実践化することにつながります。

#### ④ 色から指先へ

県や地方の地図を見て最初に眼に入ってくる要素は色彩です。「県の地図にはどんな色がつけられていますか？」「県や市の地名は何色で書いてありますか？」をていねいに教えてください。「市街地って黄色で塗られているんだ！」「愛知県という文字は赤い色で目だっているね。」「茶色や紫っぽい色は『山地・その他』なのか」と確認させる作業を怠ってはいけません。教師にとっては当たり前の知識でも児童にとっては初めての学びです。次に、人さし指に注意を持たせます。「地図で地名を探したり、線や形をなぞったりする際には人さし指を使います！」「指先に自分の眼がついていると思って下さい。」と指示して下さい。「指旅行」と呼ばれる基本的な指導法です。

市や県、流域図の形が動物や人物の形に似て見える（擬似法）、一筆で県境を描く（略地図法）、山岳地帯を斜め下から眺める（立体視法）など地図帳ならではののおもしろい指導法もあります。プロ教師の技を地図帳でも磨いてください。

